

第 1 章

基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けた取組

第1章 基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けた取組

基礎・基本の定着を図るためには、重点的な指導や繰り返し指導等の指導計画、チーム・ティーチング（TT）、少人数指導等の指導体制、一人一人の児童生徒の理解の程度や興味・関心に応じた指導の充実などの指導方法・評価方法を工夫する必要があります。

また、帯時間や放課後等を活用して、基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けた補充学習等を効果的に行い、授業中に身に付けた知識・技能のより確実な定着を図りましょう。

1 個に応じた学習形態や指導方法の工夫

（1）学習状況の把握に基づく指導計画の工夫

教科書は重要な学習材の一つですが、教科書の教材を配列どおりに漫然と指導しては身に付けさせるべき力の定着につながりません。つまずきやすい内容を明確にして、重点的な指導や反復練習などを指導計画に位置付けるようにしましょう。また、身に付けた知識・技能を活用することをとおして、知識・技能の定着を実感させたり、さらにその定着を確実にさせたりするなどの学習活動を指導計画に位置付けましょう。

（例）学力調査等による現状把握

- ↓
- ◇全国学力・学習状況調査
 - ◇標準学力調査
 - ◇定期テスト、単元テスト
 - ◇児童生徒への意識調査（アンケート）
 - ◇観察等

課題の明確化

- ↓
- ◇現状把握を基にした分析（理解の程度、配慮事項）
 - ・全体の課題
 - ・個別の課題

重点的に指導する内容や反復学習の必要性の有無等について検討

- ↓
- ◇単元の目標や指導内容の確認

指導計画への反映

- 単元指導計画等における補充的な学習や繰り返し指導の位置付け
- 単位時間における復習やまとめ、練習問題の時間の位置付け
- 既習事項を活用して新たな課題を解決する中で、基礎的・基本的な知識・技能の一層の習得を図る学習活動の位置付け

既存の調査やテストを活用して、児童生徒の実態を把握し、指導計画に反映させましょう。学校全体で課題を共有し、課題解決に向けて共通実践していくことが重要です。



実践例 **小学校** 「全国学力・学習状況調査を活用した授業改善」

平成29年度鳥取県教育研究大会展示パネルから抜粋

◆児童生徒の学力課題の把握

6月に自校採点を行い、平成29年度全国学力・学習状況調査から学力課題を把握

つまずき・課題のあった問題	課題(児童に身に付けさせるべき力)
買ったリボンの長さ、1mあたりのリボンの値段と、代金が、それぞれ数直線のどこに当てはまるかを選ぶ。(A問題)	問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線などに表す力に課題がある。
「最小の満月の直径」の図に対して、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶ。(B問題)	示された割合を基に、基準量と比較量の関係を捉え図に正しく表す力に課題がある。
13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書く。(B問題)	問題解決のために必要な情報を選択する力に課題がある。

◆課題解決のための取組の実際

1 調査結果を基にした校内研修会の開催(6月)

- (1) 全職員で問題を解き、どのような力が必要なのか体感し、求められている学力について話し合う。
- (2) 調査問題と関連の深い教科書教材を取りあげ、指導内容を確認し、授業での扱いを検討する。
- (3) 割合の考えや図に表す力を身に付けさせるために、割合とわり算の関連や学年間の系統的な指導内容を確認する。
- (4) つまずきのある問題を分析し、児童に身に付けさせるべき力や授業改善の視点を洗い出す。

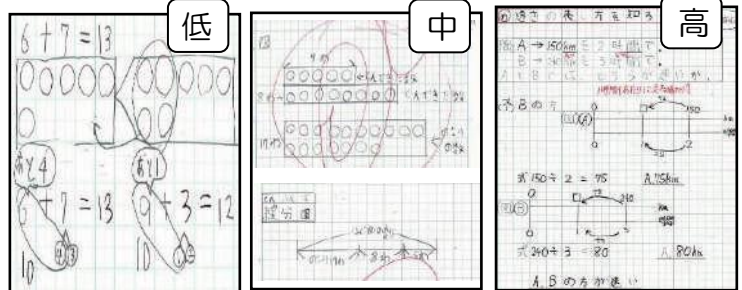
2 授業改善への取組 ～算数授業での実践の継続～

(1) 「数量関係を図や数直線に表す力」

- ・乗法や除法の問題場面を、場面を把握したり、立式の根拠としたりするために「2本の数直線」「テープ図」のかき方や使い方を指導し、積極的に活用する。

(2) 「関係を捉え図に正しく表す力」

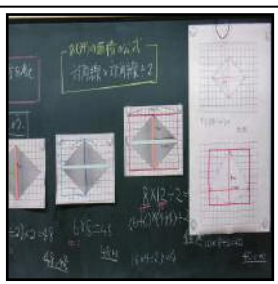
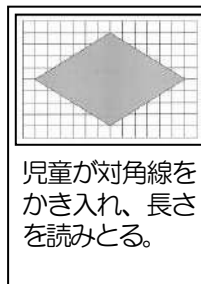
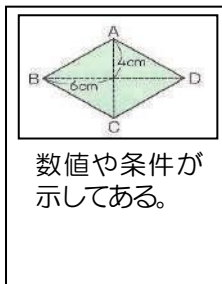
- ・低学年から段階的に図のかき方や記号を用いたかき方の指導を積み重ねる。
- ・図、式、言葉を使って表現させるとともに、話し合いの中で関連付ける。



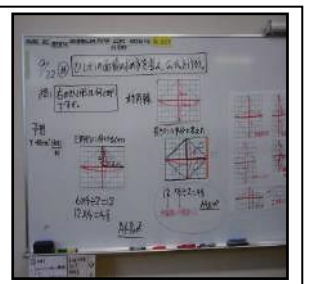
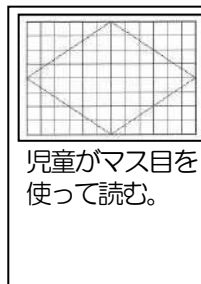
(3) 「必要な情報を選択する力」

- ・思考の契機となる図をノートに貼ったり、必要な数値・矢印・言葉・線などを記入したりしながら、自分の考えを表現する「ノートづくり」の指導を継続する。
- ・児童の学習状況に応じた習熟度別コースでは、問題を解決するのに必要な情報を変えるなど、コース別に教材開発を行う。

教科書教材 → 発展コース



基礎コース



◆学力課題の改善状況の把握

- ・ノートや振り返りで学習状況を把握する。
- ・評価問題を位置付け、理解度を確かめる。
- ・アンケートによる児童の実態把握や変容を指導に生かす。

(2) 指導体制の工夫

児童生徒に確かな学力を身に付けさせるためには、教師は児童生徒の特性等を十分理解し、個に応じた指導の充実を行う必要があります。

そのためには、学習のねらいを踏まえた上で、児童生徒の発達の段階や学習の実態等に配慮しながら、一斉指導に加え、複数の教師によるチーム・ティーチング（TT）や少人数指導等の指導体制を柔軟に取り入れて授業を行うことが大切です。

また、小学校において教師の特性を生かし、得意な分野でより広く深い教材研究に基づいて授業を展開することは、基礎的・基本的な内容について児童の理解を深めることにつながります。特に小学校高学年における教科担任制は、中学校へのスムーズな移行という意義もあります。学級担任を基盤にしなが、交換授業を軸に部分的に導入するところから始めると無理がありません。中学校では、一人の教師が複数学年を担当する、いわゆるタテ持ちを導入したり、教科部会を週時程に位置付けたりすることで教科指導の相談や授業づくりの打合せが可能になるような環境づくりをすることも重要です。

<少人数指導やTTを行う際の留意点>

- それぞれの指導体制のメリットを生かせるよう授業展開を工夫する。
- 年間指導計画に位置付けて、計画的に行う。
- 単元に入る前に指導計画を確認し、教師の役割分担を明確にする。
- 単元や単位時間の評価規準を明確にして、どの場面で、どのような方法で評価するのか共通理解を図る。

<少人数指導>

学級集団を分割して少人数にすることで、きめ細やかな対応が可能になり、個を生かし、個に応じた指導を充実させることができる。

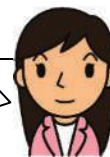
<TT>

複数教師による指導・支援・評価により、多様な個に対応し、児童生徒一人一人のよさや可能性を引き出し、伸ばすことが期待できる。

(例) 「小数÷小数」

時数	学習内容	指導形態	
①	整数÷小数の立式	TT	多様な考え方を比較しながら計算の仕方を確認する
②	整数÷小数の計算		
③	小数÷小数の立式と計算	少人数	習熟度別に小数÷小数の計算について習熟を図る
④⑤	小数÷小数の筆算		
⑥	商を概数で処理する場合の筆算	TT	つまずきに合わせて、複数の教師が支援する
⑦	被除数、除数、商、余りの関係		
⑧	除数と商の大小関係		

個人差が大きくなる授業では少人数、多様な考え方を交流する場面ではTTというように、意図的に指導体制を工夫しましょう。



<教科担任のタテ持ちについて>

いわゆる「タテ持ち」は、教師の教科指導力の向上を図り、質の高い授業の実施をねらっています。単に実施するというだけでは、複数学年の教材研究が負担になるだけで、期待する効果を得ることはできません。教科部会の充実等、体制づくりも併せて行う必要があります。



県内で「タテ持ち」を実践している学校から、教材研究の充実や客観的な評価につながる等の成果が感じられるという報告もあります。

(「タテ持ち」担当例)

1年	1組	2組	3組	4組
2年	1組	2組	3組	4組
3年	1組	2組	3組	4組
	A先生 (1年団)	B先生 (2年団)	C先生 (3年団)	

1年	1組	2組	3組	4組
2年	1組	2組	3組	4組
3年	1組	2組	3組	4組
	A先生 (1年団)	B先生 (2年団)	C先生 (3年団)	

(3) 指導方法・評価方法の工夫

基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けて、一人一人の児童生徒の理解の程度や興味・関心に応じた指導の充実を図るとともに、児童生徒の学習状況を的確に把握し、指導に生かすことが重要です。

◇定期的な定着度の確認

単元テスト等を活用して、基礎的・基本的な知識・技能の定着度を定期的に確認し、指導の見直しや補充等を行うことが必要です。

◇教材・教具の工夫、ICTの活用

反復は学習内容の定着には欠かせませんが、形式的なドリルとならないよう活動内容や方法を変えたり、内容を高めたりして、主体的に取り組みながら、基礎・基本の定着につながるよう教材・教具を工夫することが大切です。

また、社会科における資料の収集・整理・活用、算数・数学科における数量や図形の学習、理科の観察・実験等にICTを効果的に活用することで、児童生徒の主体的な学びにつながります。

(例) 社会：教科書等の挿絵を実物投影機で拡大提示し、関心・意欲を高める。
理科：デジタルコンテンツを活用して、課題提示したり、説明したりする。



算数で図形の点を移動させながら説明する



タブレットを操作しながら説明し合う

実践例 **中学校** 「単元テストを活用した定着度の確認」

◇単元末テストの実施

- ・単元プリントを活用（単元により2～3枚を1単位時間で実施）

◇採点、正答率、誤答状況等の分析

- ・単元プリントのデータを集約しておき、過去のデータと比較したり、同様の取組を行っている学校のデータと比較したりして、分析を行う。

全員で確認が必要な問題について、補充指導を行う。

単元テストの結果に応じてコース選択し、学習内容の定着に向けて指導する。

類似問題等により補充指導を行うコース

発展的な問題を扱うコース

基礎的・基本的な知識・技能の定着度を確認し、必要に応じて補充学習等を行う時間を、指導計画に位置付けましょう。



2 帯時間、放課後等の活用

帯時間や放課後等を活用した短時間学習等を効果的に位置付けるためには、その目的や実施のねらい、授業と短時間学習等との関係性、指導の順序性等を明確にしておくことが必要です。

(授業との関連性を意識した短時間学習等の例)

- ◇授業で扱う領域等について、朝の帯時間で既習事項の復習をする。
- ◇家庭学習で授業内容の復習に取り組み、朝学習でその内容について確認テストを実施し、授業内容の定着を図る。
- ◇児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能の定着度を小テストや単元テストで把握した上で補充指導を行う。

(1) 帯時間の活用

朝や午後の初めの10分間の帯時間をドリルタイムとして、全校で読書・計算・漢字等に取り組んでいる学校は多くあります。基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や学習習慣の育成を図るため、10分間程度をモジュールとする「学習タイム」の時間を設定し、計算や漢字、英単語等の反復学習などに取り組むことが効果的です。このとき、機械的になったり、マンネリ化したりしないような工夫が必要です。

実践例 中学校 「授業時数に算入する学習タイム」

<ねらい>

数学及び英語の各単元の基礎的・基本的な学習内容について、反復学習等の継続的な指導により、学力の確実な定着や学習意欲の向上を図る。

<取組概要>

○週4日 8:25～8:35の10分間実施

○実施教科

数学：水曜日、金曜日

英語：火曜日、木曜日

○学習内容

・既習内容の復習を中心に実施する。

○教科担当が教材の作成、準備、評価を行う。

○実施教科ごとの学習タイムの時数を計算し、年間総授業時数に含める。

	月	火	水	木	金
学習タイム 10分間	/	英語	数学	英語	数学

<指導上のポイント>

○時数管理の仕方や評価方法について校内で共通理解を図り実施する。

○学習タイム全体の指導計画を立て、単元ごとの学習内容について教材を選定し、系統的に実施する。

○教科担任・学級担任の役割を明確にして取組を行う。

○学習タイムによる学習状況や教育効果を家庭に伝える。

(2) 放課後等の補充指導

児童生徒に基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るためには、学習のつまづきを早期に発見し、早期対応することが大切です。

放課後を活用した個別指導の工夫については、例えば次のようなことが考えられます。

- 月に2～3回程度、5時間授業後の6時間目を学習タイムとして設定する。
- 学習内容は、①補充的な内容 ②反復が必要な内容 ③発展的な内容など、児童生徒の実態に応じて用意する。
- 学習タイムの目的や意義を児童生徒と保護者に十分説明し、積極的に活用する。
- 地域と連携した放課後学習支援システムの構築を図る。

実践例 **小学校**

地域の方（学習ボランティア）とともに基礎・基本の定着を図る「放課後子ども教室」

<目的>

○児童に学習やさまざまな体験・活動を行う居場所を確保し、地域と連携した放課後における健全育成を推進する。

<背景>

○共働きの増加、勤務形態の複雑化により、児童が家庭学習を行う時間帯に保護者がいないことが多くなり、学習習慣の定着が難しくなっている現状がある。

<取組概要>

- ①全児童を対象に参加者を募る。※参加者の保護者にも事前に連絡し理解を得る。
- ②年度当初に地域に文書を配布し、学習ボランティアを募る。
- ③学習ボランティアが入り、週に2回程度学校で「放課後子ども教室」を開催する。
- ④家庭学習で取り組む内容を中心に、基礎的・基本的な内容について指導する。



<指導上のポイント>

- 学習ボランティアにすべてを任せるのではなく、学校の教員も必ず1名参加して、状況を確認する。
- 参加児童の学習状況について、コーディネーター（学校と地域の連携役）を中心に共通理解を図っておく。
- 下校時刻を考慮するなどの安全対策について、家庭や地域との協力体制をつくる。
- 定期的に学習ボランティアで連絡会を開き、児童の様子について共通理解を図る。



県教育センターホームページに公開している学習教材「とりっこドリル」を、国語、算数・数学における児童生徒の基礎的・基本的な知識や技能の定着に向けて御活用ください。

【活用例】

全国学力・学習状況調査の結果等を分析し、課題が見られる問題や単元等に関わる「とりっこドリル」をモジュールタイムで活用することによって、自校の児童生徒の課題解決に向けて取り組む。

『とりっこドリル』は県教育センターのホームページからダウンロードできます。
<http://www.torikyo.ed.jp/kyoiku-c/>



<トピック（授業づくりの基本）>

児童生徒の実態把握、ねらいの明確化等、我々教師が授業をする上で大切にすべきことはたくさんありますが、ここでは、「発問」「板書」「ノート指導」「机間指導」といった、いわゆる「授業技術」と言える部分について、我々教師が身に付けておきたいことをまとめました。

（1）発問

①発問とは

発問とは、本時（単元）の目標を達成させるために教師が行うものであり、児童生徒の思考や活動を促すものです。以下のような問いが考えられます。

- ▶ 経験したこと、知っていることなどを問う発問
例) ○○について、知っていることはありませんか。
- ▶ 問題場面の原因を考えさせる発問
例) ○○は、なぜ、□□になったのでしょうか。
- ▶ 結果を推測させる発問
例) ○○することで、□□はどうなるのでしょうか。
- ▶ ふさわしいと思われるものを選択させる発問（同時に理由も問う。）
例) ○○するために、どの解決方法がふさわしいでしょうか。
なぜ、そのように考えましたか。
- ▶ 違いや共通点を問う発問
例) ○○と□□の違いや共通点は何でしょうか。
- ▶ 分類させる発問（グループ分けやその基準を問う。）
例) これらのものはどのようなグループ分けができるでしょうか。
なぜ、そのように分けましたか。
- ▶ 賛否を問う発問（同時に理由も問う。）
例) ○○について、賛成ですか、反対ですか。なぜそのように判断しましたか。
- ▶ 振り返りを促す発問
例) 何がわかりましたか。何ができるようになりましたか。
なぜ、わかるようになりましたか。なぜ、できるようになりましたか。
今後、何を学びたいですか。今後、どのように学びたいですか。

必要に応じて問いを繰り返すことも必要ですが、問う内容が変わってしまうことがないように注意しましょう。



②発問の際のポイント

- ▶ 発問は、児童生徒がきちんと話を聞いているかを確認してから行いましょう。
- ▶ 児童生徒が捉えやすい明確な問いにしましょう。
- ▶ 多様な考えを引き出す問いにしましょう。

③発言を受けて

- ▶ 一人一人の考えの良さを評価しましょう。
- ▶ 発言から児童生徒のつまずきを見抜き、必要な手立てを講じましょう。
- ▶ 発言者の考えを他の児童生徒の思考のヒントにしましょう。
- ▶ 誤答も大事に扱い、誤答から学習を深め問題解決できた喜びを、みんなで分かち合う雰囲気大切にしましょう。

(2) 板書

①板書の役目

- 板書には、次のような役目があります。
- 学習内容の要点が分かり、理解の定着を図る。
- 思考を助け、思考活動を活発にする。
- 学習過程が分かり、振り返りがしやすくなる。

②板書のポイント

- 本時の目標が分かるようにしましょう。
- 児童生徒にとって分かりやすいよう、色への配慮や文字配置等の工夫をしましょう。
- 児童生徒の書く速さを考えながら板書しましょう。
- 児童生徒のノートとの関連を考えましょう。
- 児童生徒が授業を振り返ることのできる板書にしましょう。

板書計画は授業づくりの柱の一つです。
明確な意図を持った板書計画を立てましょう。



1時間にどんな学習をしたかが分かるようにしましょう。また、「めあて」と、それに対応した「まとめ」や、「まとめ」に至る学びの過程が見える板書を目指しましょう。

板書例 小学校算数

問題 ジュース $\frac{2}{5}$ Lと $\frac{1}{5}$ Lをあわせると何Lですか。

分母は同じだね。

めあて 分母が同じ分数のたし算の仕方を考え、説明しよう。

式 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$

整数ならかんたんだけど、分数でもたし算できるのかな。

・答えも分数になりそうだ。
・分子も分母もたしてみてはどうか。
・「1Lます」の図をかいて考えよう。
・線分図で表してみよう。

答えが1をこえてもいいの？

まとめ 分母が同じ分数のたし算は、もともになる分数の何こ分になるかを考えれば、整数と同じように計算することができる。

練習問題

① $\frac{2}{7} + \frac{3}{7}$ の計算の仕方を考えて、説明しよう。

② $\frac{\square}{5} + \frac{\triangle}{5}$ ←□や△にいろいろな数を入れて計算しよう。

1Lを5つに分けた「ます」を使っているから、たし算をしても分母は同じだ。

1を5つに分けた3つ分なので、答えは $\frac{3}{5}$

式 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5} = \frac{3}{5}$ **もともになる分数**

答え $\frac{3}{5}$ L

$\frac{1}{5}$ が何こ分になるかを考えると...

$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が ② こ

$\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が ① こ

あわせて、**整数で計算できる!**

$\frac{1}{5}$ が (2+1)こなので

$\frac{3}{5}$ になります。

(3) ノート指導

①ノートづくりの意義

ノートづくりは、児童生徒にとって次のような意義があります。

- ▶書くことによって、思考過程の整理を行ったり思考の結果を明確にしたりできる。
- ▶学習内容を残すことができる。 ⇨ 学びを振り返ることができる。
- ⇨ 学習を継続的に深めていくことができる。

②ノート指導のポイント

ガイダンスを実施し、ノートづくりの例を示すと共に、次のようなことを児童生徒に伝えることが大切です。

- ▶板書を写すだけでなく、自分の考えやわかったこと、疑問に思ったことを書きましょう。
- ▶言葉だけでなく、絵や図などを使って、自分だけの特別のノートをつくりましょう。
- ▶ノートを学びの足跡とし、新しい学びの際の手がかりとして使いましょう。

③その他指導上のポイント

- ▶児童生徒が板書を写す時間、自分の考え等を書く時間を確保しましょう。
- ▶授業で児童生徒のノートを活用しましょう。
- ▶定期的にノートの評価を行いましょ。 ※個別指導を行う重要な材料になります。



- ◆ノート点検の際には、助言やほげましの言葉、感想などを添えるようにしましょう。
- ◆工夫されたノートの例を、掲示や学級だより等で紹介しましょう。
- ◆年3回（学期に1回）、朝の帯時間を活用してノート展を開催し、意図的に他学年の児童のノートを見る場を設定している学校もあります。



上級生のノートを見る児童

(4) 机間指導

①机間指導のねらい

机間指導には、次のようなねらいがあります。

- ▶児童生徒が課題を把握できているかどうかを確認する。
- ▶児童生徒の様子から、指示した内容や活動が適切であるかを判断し、授業の改善に役立てる。
- ▶児童生徒一人一人の学習内容を評価し、個に応じた指導をする。
- ▶児童生徒一人一人の考え等を把握し、全体で取り上げる内容や順番を考え、授業の構成に生かす。

机間指導は、限られた時間で行います。あらかじめ観察の視点（何を見取るのか）を決めておくことが大切です。



②机間指導後の対応

- ▶多くの児童生徒が課題を把握できていない場合は、全体への課題の再提示も検討しましょう。
- ▶つまずきが見られた場合には、ヒントカードなど、具体的な支援を行いましょ。（そのための準備が大切です。）

チェックリスト

項目		内容
個に応じた学習形態や指導方法の工夫	学習状況の把握に基づく指導計画の工夫	<input type="checkbox"/> <u>学校全体で、全国学力・学習状況調査等を活用して、児童生徒の現状把握を行っている。</u> <input type="checkbox"/> <u>児童生徒の現状について分析を行い、児童生徒の学力課題を明確にしている。</u> <input type="checkbox"/> <u>児童生徒の学力課題の解決に向けて、重点的に指導する内容等を検討し、指導計画に反映させている。</u>
	指導体制の工夫	<input type="checkbox"/> 少人数指導やT T等の指導体制のメリットを生かすような工夫により、個に応じた指導の充実を図っている。 <input type="checkbox"/> 小学校における教科担任制、合同授業等、教師の特性を生かした授業を展開している。
	指導方法・評価方法の工夫	<input type="checkbox"/> <u>定期的に児童生徒の知識・技能の定着度を把握し、指導の見直しや補充等を行っている。</u> <input type="checkbox"/> 児童生徒の主体的な学びにつなげるよう教材・教具の工夫やICTの活用を行っている。
帯時間、放課後等の活用		<input type="checkbox"/> 朝や午後の初めの10分程度を活用して、知識・技能の確実な定着に向けた取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 学習のつまずきを早期に発見し、放課後等に知識・技能の定着に向けた補充学習を行っている。

児童生徒の実態把握に基づいた指導計画の作成や授業展開、補充等の実施が、基礎・基本の定着に向けて大切にしたいポイントですね。



第2章

学習規律の定着に向けた取組

第2章 学習規律の定着に向けた取組

「学習規律」を定着させるためには、目指す児童生徒の姿を具体的に持ち、その実現に向けて継続的に取組を進めることが大切です。教師自身が自己の指導を振り返るとともに、児童生徒の主体性を大切にしたい指導を考えるなど、取組を工夫していきましょう。

1 学習規律の考え方

「学習規律」は、学校で児童生徒が学習するのにふさわしい状態をつくるために必要なルールやマナーであり、授業の基盤となるものです。児童生徒にとっては、よりよく学習するための「学級の力」といえることができます。

「学習規律」は、日々の授業の中で「学習内容」「学習方法」と一体的に学ぶものです。よい授業の中でこそ、よい「学習規律」を身に付けることができるのです。

また、「学習規律」は、教師が一方的に指導するものではなく、児童生徒とともに作り出すものという捉え方をすることも必要です。

2 学習規律の定着に向けて

一般に「学習規律」というと、たくさんのルールやマナーが挙げられますが、ここでは、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙、学校質問紙にある「時間」「私語」「聞く」「話す」に「学習準備」を加えた5項目について、その定着に向けた事例を取り上げます。

(1) 「時間を守る」児童生徒を育てるための指導

学校という集団生活の中で、時間を守って行動することは大切なことです。これは、将来の社会生活へつながり、自身の学びやキャリア、信頼関係にも関わるものです。

「時間を守る」指導をすることは、児童生徒の行動を切り替える力・けじめをつける力などの自己を律する力や生活リズムの育成などにつながります。

指導のポイント例

- 【規律の共有】 * ルールの提示と確認
* 時程表等の掲示、配布等の視覚化
- 【教師の姿勢】 * 授業の始まりと終わりの時間の厳守
* 児童生徒が時間を守ることができるような時間設定
- 【自主性の育成】 * 時間を守る意味やよさを伝える場の設定
* 時間を守る事のよさを実感できる教師の適時の評価
* 日直・当番・委員会等が「時間を守る」声かけをする役割の設定
* 児童生徒が自ら時計を見て行動する機会の設定（ノーチャイム等）

実践例 小学校 「0分スタート」

授業時間を確保するため、チャイムと共に授業を開始する「0分スタート」に取り組んでいます。休憩、掃除終了後は、「授業開始のチャイムまでに着席し、授業の用意をして待つ」という約束を決めて、徹底しています。

休憩時間に教室から遠い場所にいる場合は、早めに休憩を切り上げて移動するなど、自分の行動の管理をすることができるようになっています。

実践例 中学校 「教員も2分前完了」

研究推進計画に、教師が共通実践する項目として、時間を守る生徒を育成するための教師の行動を示しています。

「5分前行動、2分前着席」と具体的な時間を示すだけではなく、「教員も2分前完了」と決めて、教師の取り組む姿勢を共通理解しています。

【学習指導において共通実践していきたいこと】

・学習規律の確立

○生徒の「5分前行動、2分前着席」の定着を図るための教員の軽いフットワーク

－教員も2分前完了を！－

○10分休憩に、生徒のそばへ（無理のない範囲で）－見守り→生徒の安心感へ－

○状況に応じて、複数体制での学習指導－同僚性の発揮－

(2) 「私語のない」授業をつくるための指導

私語とは、「学習に関係のない話を授業中にすること」であり、私語をなくすことは、児童生徒が落ち着いて学習できる環境をつくることとなります。集中して学習することで、児童生徒は学習内容の理解を深めることができます。

また、時と場合を考え判断する力をつけることやけじめのある行動をすることにもつながります。

指導のポイント例

【規律の共有】 ＊ルールの提示と確認、視覚化

【教師の姿勢】 ＊児童生徒が主体的に取り組めるような授業展開の工夫
＊私語を許さない毅然とした態度での指導

【自主性の育成】 ＊日直・当番・委員会等による目標づくりや声かけ
＊私語がない時の適時の評価、よさが実感できる言葉かけ

実践例 小学校 「視覚化」

私語をなくすために、絵を描いて必要な時に提示するようにしています。言葉で指示しなくても、意識できるようにしています。



実践例 中学校 「生徒が考える学級の学習目標」

「自ら主体的に取り組む学習」へ！(『自学のすすめ』から)
これを授業中に達成するために授業中で何に取り組むか、これをクラスで決定する。
「学習目標」と位置づける。

・授業五則から決定する

- 一 授業開始時刻を守る
- 二 姿勢を正す
- 三 忘れ物をしない
- 四 私語をしないで授業に集中する
- 五 人の発言を尊重する

ここから「私語をしない」を目標に設定する。

学校での共通の取組を学年始めに職員で話し合い、確認しています。その中から各学級の学習目標を生徒自身が考えて決めています。

実践例 中学校 「授業づくり・学習展開と時間設定の工夫」

生徒が意欲的に学習に取り組めるような授業づくりを意識しています。学習内容と活動に必要な時間を考え、隙間時間がないようにしています。また、学習や作業の個人差に対応して、ワークシートや問題等を準備し、やることがないという時間をつくらないようにしています。

(3) 「人の話を聞く」児童生徒を育てるための指導

「話すこと・聞くこと」は、学習活動の基盤となるものであり、その中でも「人の話を聞く」ことは、集団の中で学習するために、重要な規律です。

「人の話を聞く」ということは、自らの思考を深めたり、広げたりすることや思考・判断をする際の材料を増やすということにつながります。また、学級の全員が自分の意見を一生懸命聞いてくれているという環境は、児童生徒に、「分かりやすく話したい」「丁寧に説明したい」という意識を育てます。

指導のポイント例

- 【規律の共有】 * ルールの提示と確認
* 話を聞く時に大切なことを視覚化して提示
- 【教師の姿勢】 * 話を聞く時の反応や質問の仕方等のモデルとしての姿
* 「聞く」力が「話す」力も育てるという意識を持った指導
* 話を聞く時、話し合う時などが明確になる分かりやすい指示
- 【自主性の育成】 * 話を聞くことの意義やよさを伝える機会の設定
* よさを実感できる場の設定と教師の適時の評価

実践例 **小学校** 「話し合いのイメージ化」

学習スタンダードに、「話を聞く時のポイント」や「話の聞き方例」、「話型」などを示しています。イラストや吹き出しを入れることで、実際の場面を児童がイメージすることができます。また、話を聞く時には、友だちのよい考えなどをノートに書いて残すことなども記載しています。

(2). 話し合うときは… (学習方法わざと学び合い)

①わからないことを質問しよう。

②ちがうところを見つけよう。(どちが正しいやり方、考え方を考えよう)

③同じところを見つけよう。

☆ただ聞くのではなく、
いいやり方や考え方はノートに◎として必ず書くようにしよう。

実践例 **小学校** 「意味や価値を伝える」

学級の約束を掲示する中で、内容だけでなく、その意味や価値についても示しています。

5年B組の約束

①話をしっかり聞く
(話す人をしっかり見て話を聞くことができると、いろいろなことが頭や心に残ります。話す人を育てるのは聞く人です。)

②掃除をいっしょうけんめいする
(だまって掃除をいっしょうけんめいすることで、場所だけでなく、心もピカピカになります。)

③当たり前のルールを守る
(みんなが気持ちよく生活できます。)

実践例 **中学校** 「カードによる視覚化」

話を聞く時には、「聞くとき」というカードを黒板に貼ることで、生徒が話を聞くことを意識できるようにしています。他にも、「書くとき」「話し合う」のカードも作成して、活用しています。

(4) 「聞き手を意識して話をする」児童生徒を育てるための指導

「聞き手を意識して話をする」ことは、自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えるために大切なことです。そのためには、児童生徒が自分の考えを整理し、明確にしておくことが必要になります。

相手の反応を見ながら話すことで、聞き手が話を理解しているかを把握し、話をする内容や話し方を工夫することができるため、相手によりよく伝えようという姿勢を育むことにもつながります。

指導のポイント例

- 【規律の共有】 * ルールの提示と確認
* 話す時に大切なことを視覚化して提示
- 【教師の姿勢】 * 児童生徒の反応を見ながら話すモデルとしての姿
* 話がしやすい環境、人間関係づくり（学級経営）
- 【自主性の育成】 * 児童生徒の発表のよい点を認め、手本として紹介
* よさを実感できる場の設定と教師の適時の評価

実践例 小学校「ふり返りカードの活用」

各教室に、「身に付けさせたい発表の仕方」を掲示しています。その項目に沿って、児童が自分の発表の仕方をチェックし、「ふり返りカード」に記入することで、よりよい話し方について、意識することができるようにしています。

「発表で学習を深めよう」ふり返りカード（3～6年）
年 組

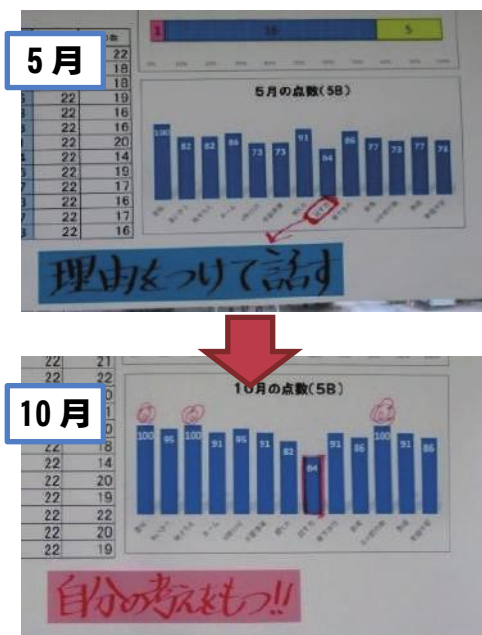
教室にはついている「発表で学習を深めよう」は、友だちとつながり、学習を深めるためにこういう発表の仕方を身につけてほしいと考えられたものです。みなさんは、どのくらい学習で使っていますか。ふり返ってみましょう。（当てはまる方に○を付けましょう。）
まだ、使えていない発表の仕方があれば、これからどんどん使って発表しましょう。

	発表の仕方	使っている	あまり使っていない
もたになる話し方	1. わたしは、…と思います。そのわけは、…だからです。		
	2. わたしの考えは、…です。たとえば、…です。		
	3. はじめに、…です。つぎに、…です。さいごに、…です。		
	4. …です。どうですか。		
考えがにている時の話し方	5. ○○さんと、にっています。		
	6. ○○さんに、ついでに話します。		
	7. ○○さんと同じで、…です。		
	8. ○○さんの考えにつけたし（ついでに）で、…です。		
	9. ○○さんと同じですが、理由がちがって、…と思います。		
考えがちがう時の話し方	10. ほかの考えがあります。		
	11. ○○さんとは別の考えがあります。		
	12. ○○さんとは別の考えで、…です。		
	13. ○○さんとは別の考えで、…と思います。		
たずねる時の話し方	14. ○○さんは、…と言いましたが、わたしは、…と思います。		
	15. ○○さんに質問です。質問があります。		
	16. …について、教えてください。…をくわしく教えてください。		
	17. …が、わからなかったので、教えてください。		
	18. …は、どういうことですか。		

＜事例＞小学校「グラフ化して掲示」

学校のスタンダードに沿って、児童が自己評価を行い、結果をグラフ化して教室に掲示しています。

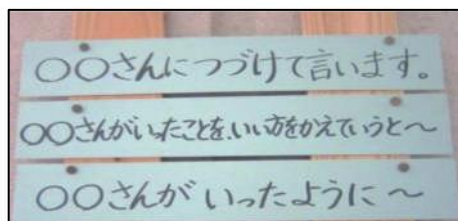
前回からの成長や学級の課題をつかむことができます。また、次の目標を明確にすることで、主体的に取り組むことにつながります。



実践例 小学校「児童の話し方のモデル」

児童から出てきた話し方を取り上げ、よりよい話し方の話型として掲示しています。

児童が、掲示された話型と自分の話し方を比べたり、話し方を工夫するように意識させたりすることで、よりよい話し方につなげることができます。



「話し合う」

- 「話す」「聞く」ことの学習規律の指導と合わせて、「話し合う」ことについても指導することが必要です。その際、下記の事項に留意することが大切です。
 - * 話合いの方法や内容を理解している。
 - * 話し合う必要性を感じている。
 - * 話し合った事が、役立ったという実感をもっている。
- 学習指導要領（国語編）の中にも「話し合うこと」について、学年ごとの指導事項が挙げられています。学習指導要領や国語の教科書を確認して、学年に応じた話合いができるように、指導しましょう。

【参考】H29.6 新学習指導要領解説 国語編より

（各学年における「A話すこと・聞くこと」の指導事項より抜粋）

【小学校】

小学校	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
話し合いの形成、共有（話し）	オ 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。	オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。	オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

【中学校】

中学校	第1学年	第2学年	第3学年
話し合いの形成、共有（話し）	オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。	オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。	オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。



「話す」「話し合う」時には、挙手をしたり、指名をされてから発言したりするように指導することは大切なことです。

しかし、相手のことを考えながら主体的に授業を進められるような学級に育っている場合には、挙手や指名がなくても自然な形で相手を意識して話したり、聞いたり、スムーズな話合いをしたりすることができます。

また、学習の内容によっては、児童生徒の素直な反応や気付きなど、つぶやきや自由な発言を生かした授業をすることもあります。

学習規律の指導には柔軟性を持つことも大切です。

(5) 「学習用具の準備ができる」児童生徒を育てるための指導

授業に必要な「学習用具の準備」を確実にすることで、児童生徒は自分が学ぶ環境を整えることができ、落ち着いて学習することができます。

また、授業に必要な準備を自分で考えて行うことで、自立した学習習慣の定着につながります。

指導のポイント例

- 【規律の共有】
 - * 常時必要な準備物の提示、確認
 - * 準備物一覧の掲示、配布
 - * 各時間の準備物の事前周知と確認
- 【教師の姿勢】
 - * 準備物の周知と確認
 - * 確認が必要な児童生徒への個別対応
 - * 家庭との連携・連絡
- 【自主性の育成】
 - * 日直・当番・委員会等による確認や黒板等への記入

実践例 小学校「学習用具の提示」

学習スタンダードの中に、「準備物について」の項目を設け、共通して指導できるようにしています。筆箱の中に入れる物、道具袋に入れる物、道具袋をかける場所などを整理して示しています。

2 ふで箱の中	1・2年生	3・4年生	5・6年生
けずったえん筆ら本 (2B、B) 赤えん筆	けずった鉛筆 赤ボールペン 青ボールペン		
消しゴム(よく消えるもの)、名前ペン ミニ定規(15cm程度の筆箱に入るもの、めがねのフックがつかないもの)			
※学習に集中するため、いずれもキャラクターなどつけないものにする。			
<ul style="list-style-type: none"> ・下学年は、箱形の筆箱を使用する。(一本ずつはいり、整理整頓がしやすいため) ・筆箱に、キーホルダーなどを付けない。 			

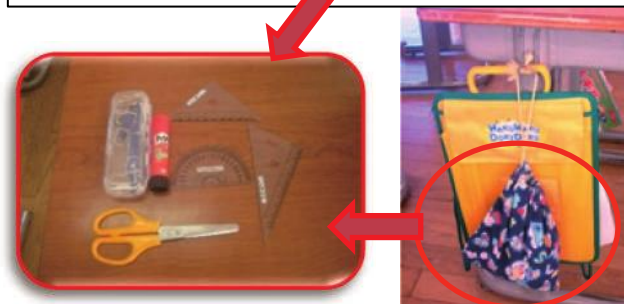
箱形筆箱を使用するとよい理由を示し、保護者も児童も意味を理解して使用することができるようにしています。

3 道具袋 (袋の大きさ: 20cm×15cm<5l) に入れるもの

- (1年生) はさみ・のり
- (2年生) はさみ・のり・三角定規
- (3年生) はさみ・のり・三角定規・コンパス
- (4年生以上) はさみ・のり・三角定規・コンパス・分度器

★三角定規や分度器は透明なもの

※机の横にかけておき、学習に必要なときに出して使う。使い終わったら袋の中に戻す。



実践例 小学校「机上の配置」

机の上を整理して使うことができるように、学習スタンダードの中で学用品の位置の基本を示しています。

【机上の配置】

- ノートは書くところを体の中心に
- 筆箱は左上、教科書は右上
(利き手によって配慮する)

【ノート指導】

- 日付・ページ・タイトルを書く
- めあてを書き、赤線で四角く囲む

【机上の配置図】

実践例 小学校「もの構え」

職員の共通実践事項の「学ぶ構え」の中に、「もの構え」として、項目を設けています。

次の時間の準備をしてから休憩することなども明記し、指導するべきことが分かるようにしています。

学び方の指導と基礎学力の定着・向上に向けて

- (1) 学ぶ構え
- <学習態度 身構え 気構え もの構え>
- ① 身構え: 体の健康 心の健康
 - ② 気構え: 学ぼうとする気持ち 意欲 興味・関心 態度
 - ③ もの構え: 学習用具の準備 家庭学習
- ・学習の準備をして席についている。
 - ・自分の席で学習を始めている。
- * 教師が時間を守って授業を始める。
 - * 子ども達に自力学習への意識づけをする。
 - * 次の時間の授業準備をしてから休憩する。

3 効果的な取組にするために

(1) 共通理解・共通実践

全校での共通実践を行い、どの教師も同じように指導することが大切です。全ての教師が、どの授業においても、共通の規律を示して取り組むことが、児童生徒に「学習規律」を徹底させることにつながります。

取組のポイント例

- * 学習規律についての共通理解の場の設定
- * 共通実践事項を可視化し、教師と児童生徒へ提示
- * 重点目標（項目）の設定と実践（実態・課題による重点設定）
- * 中学校区で統一した手引き等を作成
- * 小中の教師が互いの取組を知る相互理解の場の設定

実践例 **中学校** 「**継続的な指導**」

授業づくりのポイントを示し、公開授業の時に参観者がチェックするようにしています。授業研究会ごとに学習規律の徹底について確認し、全員の共通実践につなげています。

授業づくりのポイント17 (めざす授業の姿に近づくための指)

	評	
子ども主体の授業づくり	①生徒は主体的に学び、参加度は100%であったか	4 3
	②生徒の主体性を引き出す工夫がされていたか	4 3
	③明確な目標があり、生徒は授業の導入で学習の手順を理解して授業に取り組めたか (※単元の導入では単元の遷移を理解できたか)	4 3
	④計画的な時間配分と「 ピタリ終了 」の授業であったか	4 3
学習規律の確立	⑤望ましい学びを支える基本的な学習規律があるか	3
	⑥学び合いのための学習ルールが確立されているか (話し型、グループ活動の手順、伝え合い・話し合い活動の手順等)	3
課題提示と追求の方法	⑦学びたくなる・追求したくなる課題であったか (課題提示の工夫、課題づくりの工夫、課題の選択)	4 3
	⑧追求し続けることができるようになるための手立りが施されていたか	4 3
	⑨板書はわかりやすい量と文字の大きさとレイアウトされていたか	4 3
	⑩ノートやワークシートへの適切な筆記指導がされていたか	4 3
表現活動 (言語活動) 話し合い (交流)	⑪全員の思考が活性化し、進んで表現しようしたり、話し合ったりすることができる手立りが施されていたか	4 3 2 1
	⑫個の責任を明確にした、表現活動の工夫、話し合い活動の工夫、伝え合い活動の工夫があったか	4 3
仲間を支え合う授業づくり	⑬教師は、豊かな表情・適切な声量で分かりやすい言葉づかいをしていたか	4 3
	⑭「どの生徒も仲間と共に高め合うことができる」ための手立りが集団や個に施されていたか	4 3
自己評価 (ふり返り)	⑮「どの生徒も仲間を支えられて成長できる」ための手立りが、個へ施されていたか	4 3
	⑯学力の定着をめざしたまとめ・ふり返りができたか	4 3
	⑰ふり返りカード (自己評価・相互評価) の活用や次時への活かし方は適切であったか	4 3

※本時ですべての項目を評価できない場合もあります。

【全員で実践！第6-②弾！】

1. 「**単元・本時のマップ作り**」を工夫しよう

- ・ **ゴールの見える学習課題の設定**
→できるだけ各単元の学習課題も設定
→生徒自身が達成したのか評価できる
→個人の課題とクラスの課題を設定
- ・ **生徒が主体的に動けるマップ作り**
→単元ごとのマップにチャレンジ
→単元の第1時を工夫
→授業の流れ(手順)の明示
→各ステップのつながりも確認
→学ぶ値打ちが分かる
→50分間フル活用 →セレモニーの廃止
- ・ **振り返りの工夫**
→振り返る内容を指示する
→自己評価は自分のためのものという意識



2. 「**更なる積み上げ**」

- ① **学習規律の徹底** <<指導しきる!!>>
◆声の大きさ ◆話す・聞くスキル
◆体の向き ◆返事「はい」
◆挨拶・分離礼 ◆規律の意義を話す
- ② **1時間に1回は関わり合う場面を**
- ③ **課題意識を持って伝え、聞ける工夫を**

実践例 **中学校区** 「**校区共通の取組**」

校区の取組を掲示しています。教師も児童生徒も意識すると共に、保護者や地域の方へも取組を伝えることができます。

中学校区「**話し合いの3か条**」



(2) 学年や実態に応じた段階的指導

児童生徒に学習規律を指導する際に、一律に指導し同じ規律を求めるのではなく、学年や実態に応じて段階的に指導をすることが大切です。特に小学校では、1年生から6年生までの発達段階を踏まえて、指導の内容や方法を考える必要があります。

学年や段階に応じた取組

- ・ 学年や段階に応じた目指す児童生徒の姿を具体的に設定
- ・ 学習規律を段階別に整理し、指導内容や指導方法を工夫

実態に応じた取組

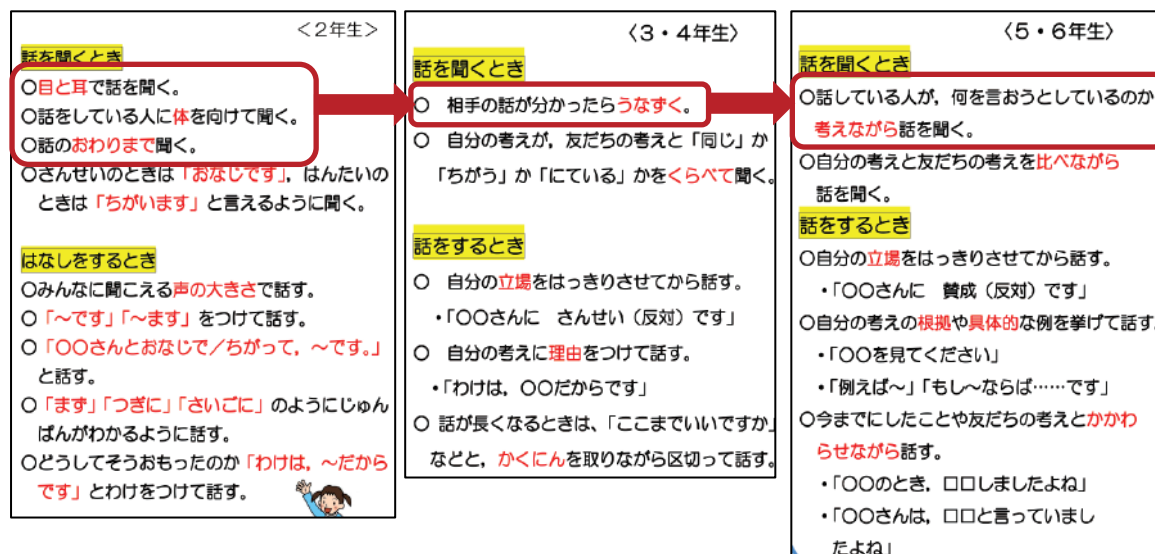
- ・ 児童生徒の実態の把握
- ・ 学級の実態に応じて指導内容を設定し、指導方法を工夫

実践例 **小学校** 「**学年の段階に応じた学習の約束**」

「学習のやくそく」として、学年に応じた「学習規律」を示しています。教室に掲示することで、学習中に確かめながら取り組めるようにしています。

また、全児童に配布し児童自身が常に意識できるようにしています。また、家庭に持ち帰ることで保護者に学校での取組を伝えています。

小学校 学習のやくそく



学年に応じて、基本的なことから、段階的にレベルアップした内容を示しています。児童に分かりやすいように、具体的なポイントや基本的な話型を示しています。

学年の段階だけでなく、児童生徒の実態に応じた取組を工夫することも、学習規律の定着を図る上で効果的です。

クラスの状況によっては、その学年の段階に応じた指導ができない場合もあります。まず、児童生徒が自分の思いや考えを話し、友だちの思いを受け止めることができるような仲間づくりをするという視点を持つことも大切です。



実践例 **小学校** 「段階の掲示」

「話す力のステップアップ」を作成し、各教室に掲示しています。

「話す力」を段階に分けて示すことで、今はどのステップなのかを把握して、段階に応じた指導をすることができます。

児童にも分かりやすいように、それぞれのステップに、話型や具体的な行動を示しています。

児童はレベルアップすることを目指して、意欲を持って取り組むことができます。



実践例 **小学校** 「学年の段階に応じた話合いの目標設定」

発達段階に応じた話合いの方法や目標等について、提示しています。方法や目標だけでなく、その意義や効果を示すことで、教師が意識して指導することができ、児童がともに高め合うための話合いにつながります。

子ども同士がともに高め合うために、発達段階に応じた人の組み合わせを行う。自分の理解度を確認できたり、分からないところを相談することができる。また、相手への説明を通して自分の考えを整理できる等、効果的である。

学年	方法	目標
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペア ・ グループ ・ 全体 	・ 話す聞く楽しさを感じる。
2年生		・ 安心して話をする。
3年生		・ 司会の仕方を覚える。
4年生		・ 聞く人を意識して話す。
5年生		・ 質問をする。
6年生		・ 的を射て話す。



発達障がい等のある児童生徒への指導をする時には、実態に応じて達成できる目標を設定することが大切です。

目標を達成することができたら、次の目標を設定するというように工夫することで、成功体験の中から、よりよい学習規律を身に付けさせていくことができます。

(3) 見通しを持った取組

学習規律の指導においても、マネジメントの視点から、年間の計画を立て、見通しを持って取り組むことが大切です。

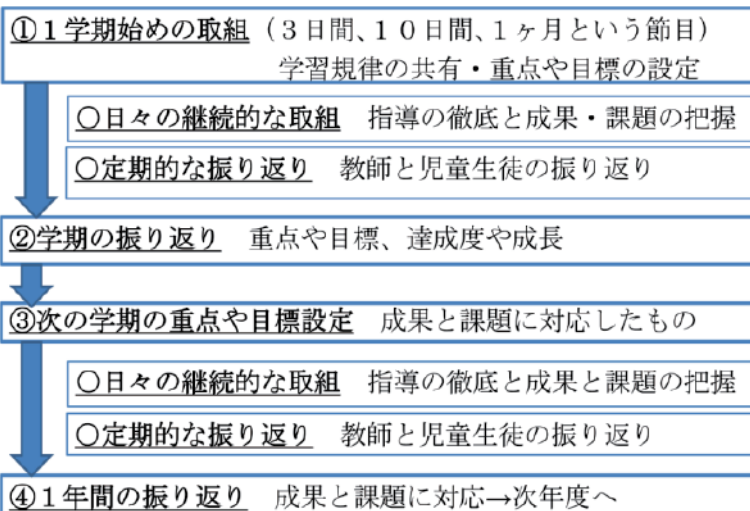
学年の始めに「目指す児童生徒の姿」を共通理解して指導することや、教師が定期的に振り返りをする心を心がけましょう。また、児童生徒自身が自己評価する機会を設けていきましょう。

PDCAサイクルを生かした取組

現状を的確に把握して、必要な手立てについて考えたり、自己の指導を見直したりすることが、効果的な指導につながります。

PDCAサイクルを意識して、1年間の見通しを持ちながら、指導していくようにしています。

(例)年間の見通し



取組の具体例

4月初めの3～10日間での指導例

- ・教室環境、学習環境の整備
 - …学習へ向かう意欲付け
- ・教師の話し方・内容の工夫
 - …児童生徒を惹きつけ、応答を引き出す
- ・返事の中身・意味の指導
- ・話す・聞く(私語)の指導
 - …つぶやき、気付きを発表・話し合いへ
- ・時間を守る
 - …授業の始まりを教師と児童生徒が守る

4月の授業で定着させたいことの例

- ・教室の机や椅子の整頓
- ・正しい着席の姿勢
- ・教師の呼名に対する返事
- ・チャイム着席
- ・発表の仕方(挙手の仕方、指名発表)
- ・学習に必要な物(準備物)(明確な指示)
- ・ノート等の使い方
など

1時間の授業の中で、「授業の序盤」「授業の中盤」「授業の終盤」のどこにどの学習規律を指導するかを意識して考えることも大切です。

定着させやすい学習規律として、「時間を守る」「準備物をそろえる」「私語をしない」の3つが挙げられます。まず、この3つを「授業の序盤」の時間を使い指導し、定着させるという工夫も考えられます。

「授業の中盤」の時間には、「話す」「聞く」「話し合う」活動を多く設定しますが、この規律はすぐに身に付くものではないので、実態に応じて、段階的に指導するなど、工夫することが必要です。



(4) 児童生徒の主体性を育む取組

学習規律を教師が一方的に決めてしまうのではなく、児童生徒とともにつくること
が大切です。児童生徒自身が学校や学年、学級の課題を把握し、課題解決のための取
組を考え、実践していくことで、児童生徒の主体性を生かした取組となります。

実践例 **中学校** 「生徒自身が各クラスの授業改善目標や評価規準を考える取組」

「授業改善週間」を設定し、教師と生徒がともに「よりよい授業」とするための取組を行
っています。教師が授業改善の意識を高めて生徒主体の授業づくりをするとともに、生徒自
らが授業改善のための目標を決めて取り組むことで、生徒の主体性の育成につなげていま
す。

職員会で提案し
ねらいや意義を
確認する

クラスで決める内容
や手順を示す

生徒が自分のクラス
の実態に応じて目標
と評価規準を決める

1 授業改善週間

- ・1週間、生徒の力で、目指す授業の姿を実現することを特に意識することで、生徒主体の授業展開をつくり出す。
- ・生徒が掲げた目標を達成できるような生徒主体の授業を展開するために、協同学習を基本とした先生たちの授業改善の意識を高める。
- ・授業評価は、生徒の設定した評価規準に沿って教科係と協議のうえ、先生が評価する。(通常の評価に加えて)

3 各クラスで決めてほしいこと(基本形)

- ① 授業改善の「短期目標」、「評価規準」の決定
 - ・短期目標…別紙資料を参考にして、各学級が1週間がんばる目標。
 - ・評価規準…毎日、具体的にどんな姿が見られたら目標を達成したことになるのか。
※生徒自身がはっきり判断しやすい内容がよい。
 - ・授業の評価は2通り行う。(通常のものと同授業改善週間のもの)
- ② クラスで話し合い、①を作成し、学習委員長に提出する。
- ③ 各クラスから提出された①を学習委員長・生徒会長・副会長がチェックする。
(※修正が必要なら修正する。)
- ④ 授業改善週間教室・廊下掲示用を提出用1枚作成し、教室に掲示する。
- ⑤ 生徒集会または給食放送で学級委員どちらか1名が取組状況を発表する。
- ⑥ 毎日帰り学活で、評価規準の点検、振り返りを行う。(学級・学習委員)

授業の中身を充実させるため、君たちの力が必要だ!

2. 各クラスで決めた、授業改善の「短期目標」と「評価規準」

①授業改善週間 6/8(月)～12(金)各学級の取り組み

1 A 授業中は私語NG・沈黙NG～目指せ YDC!!!～ やれば できる class

◆評価規準(こんな姿が見られたら達成!)

- ①1時間に挙手2回以上(全体の6割以上)
- ②発表者が話をしているときには私語をしない。
- ③発表が終わったら、声に出して反応する。
- ◎3つ全部達成 ○1～2つ達成 △すべてだめ

1 B 自分で考え、自分の意見を伝え合おう ～そう、我らはYDKなのだ!!!～

◆評価規準(こんな姿が見られたら達成!)

- ①人に頼りすぎず、まず自分で調べる。
- ②発表するときは聴いている人に伝わりやすく話す。(具体的に)

各クラスの目標と評価規準を一覧にしています。
前期(6月)と後期(10月)に行うことで、取組の成果や課題を見いだすことにもつながります。

各クラスの振り返りを掲示し、他のクラスの様子が把握できるようにしています。



実践例 **中学校** 「生徒の相互参観により、自覚を高め改善に生かす取組」

「終学活見学週間」を設定し、各学年の代議員が各学級の終学活を相互参観する機会を設定しています。見学の対象や割り当てを示し、視点を持たせた上で、他クラスや他学年の様子を見て回るようにしています。

終学活見学週間

1. 目的

- 終学活の際、上級生が積極的な話し合いをもとに班日誌を記入する姿や班反省の内容、終学活の進行の様子などを知ることで、それぞれの学級活動や仲間づくりの改善に努める。
- 終学活を公開して下級生の手本となることで、上級生としての自覚を高めるとともに、より活発な学級活動を創造する意欲を高める。
- 1学期の終学活のチェック。

2. 会場

1～3年生全学級教室

参観相手を意識することで、上学年は下学年の手本としての自覚をもち、さらに高めようとする事になり、意欲の高まりにつながっています。

3. 対象

見学者：1～3年生代議員

※全職員も自由に参観できる。担任が代議員の参観に同行して見学する際は、補担任が担任不在の時間帯に終学活を担当。

公開者：1～3年生全学級

4. 割り当て

- 10日(月) 1年生と3年生の代議員が2年生の終学活を見学する。
1-1、1-2、3-1⇒1組 1-3、3-2、3-3⇒2組 1-4、1-5、3-4⇒3組
- 11日(火) 1年生と2年生の代議員が3年生の終学活を見学する。
1-1、2-1⇒1組 1-2、2-2⇒2組 1-3、2-3⇒3組 1-4、1-5⇒4組
- 12日(水) 2年生と3年生の代議員が1年生の終学活を見学する。
2-1、3-1⇒1組 2-2、3-2⇒2組 2-3⇒3組 3-3⇒4組 3-4⇒5組
 ※3～5組には、生徒会三役がそれぞれ参加する。(代議員の参加人数が少ないため)

5. 見学の視点

- ① 終学活までに、明日の授業やその日の授業評価が記入されているか。
- ② 終学活開始のチャイムと同時に終学活を始めようとしているか。
- ③ 机上に不要なものが置いてない状態で終学活を開始しているか。
- ④ 司会者は聞き取りやすい声ときちんとした態度で進行しようとしているか。
- ⑤ 美化状況の報告で、活動の様子を言っているか。
- ⑥ 授業の反省の報告で、その授業の様子がわかりやすく報告されているか。
- ⑦ 全員が顔を上げて発表者の話を聞いているか。
- ⑧ 班の話し合いの場面で班員全員が話し合いに参加しようとしているか。
- ⑨ 日誌を読んだ時、班の活動状況がよくわかる内容であったか。
 - ・授業評価と班反省の内容が一致しているか。
 - ・「悪かった点」に対して有効な改善策が立てられているか。
- ⑩ 計画ノートの記入が終わったら、机上の物をしまっておいて係委員会の連絡を聞いているか。

生徒が「見学の視点」を持ち、他のクラスの様子を見合い比べ合うことにより、自分の学級の実態を把握することができます。

チェックリスト

項目	教師の姿
時間を 守る	<input type="checkbox"/> 授業時間の始まりを児童生徒が確認できるよう、時程などを掲示している。 <input type="checkbox"/> 教師自身が、授業開始、授業終了の時間を守っている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が時間を守れるよう、明確で無理のない指示・指導をしている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒に「時間を守る意味やよさ」について伝え、理解・実感させている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が時間を管理できるよう、日直・当番・委員会等を決めている。
私語を しない	<input type="checkbox"/> 学習に関係のない話はしないなど、ルールを明確に示し、適宜指導している。 <input type="checkbox"/> 学習に集中して取り組めるように、授業展開や課題を工夫している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒に「私語をしないことの意義」を伝え、理解・実感させている。
話を聞く	<input type="checkbox"/> 話を聞くときのポイント（話し手を見る・反応する 等）を示している。 <input type="checkbox"/> 教師が児童生徒の話を聞くモデルとなっている。 <input type="checkbox"/> 授業中に、話を聞く時・話し合う時などが明確になるよう指示している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒に「話を聞くことの大切さや意義」を伝え、理解・実感させている。
話をする	<input type="checkbox"/> 発表する時のルールを決め、適宜指導している。 <input type="checkbox"/> 話すときのポイント（相手を見る、声の大きさ、話型 等）を示している。 <input type="checkbox"/> 教師が児童生徒の発言を待つ姿勢を持ち、話がしやすい環境をつくっている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒に「話をすることの大切さや意義」を伝え、理解・実感させている。
学習用具 の準備	<input type="checkbox"/> 教科ごとに常時必要な準備物を示し、確認している。 <input type="checkbox"/> 各時間の準備物を事前に知らせ、確認している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒に「学習準備の大切さや意義」について伝え、理解・実感させている。
学校全体 の取組	<input type="checkbox"/> 校内で学習規律について共通理解・共通実践に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 学習規律についての具体的な項目や目指す姿についてまとめ、活用している。 <input type="checkbox"/> 学習規律が徹底するように継続した指導を行っている。

このチェックリストは、自分の指導を振り返ることを目的に、項目ごとに「教師の姿」を点検できるようにしています。必要な部分について確認し、指導に生かしましょう。

